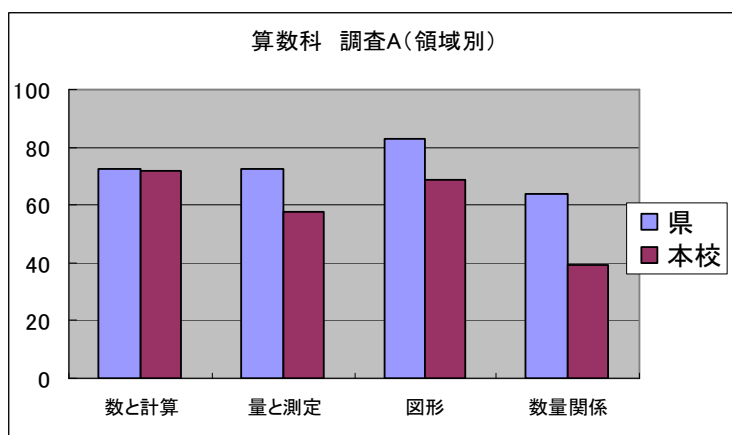


2 算数について

(1) 総括

- 調査A（主として知識に関する問題）の平均正答率は全国（74.2%）や県（72.9%）に比べ下回っています。調査B（主として活用に関する問題）についても、全国（49.3%）、県（47.9%）に比べ下回っています。
- 調査A、Bとも県平均に比べ無解答率が高くなっています。特に領域別で「図形」「数量関係」、観点別で「知識・理解」「数学的な考え方」にその傾向が見られます。

(2) 調査A(領域別, 観点別)について



<領域別>

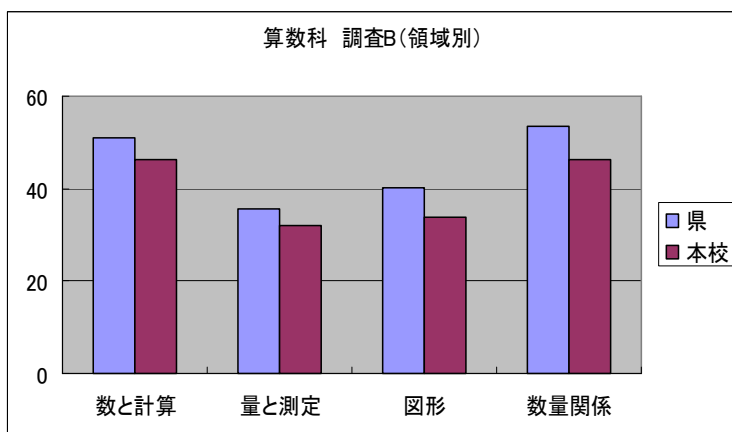
調査A（主として知識に関する問題）では、「数と計算」を除く3領域については、県平均に比べ下回っています。特に、「数量関係」では加法と乗法の混じった計算問題、割合の意味、「図形」では、平行四辺形の定義や性質の理解などの学習が十分に身につけていないようです。

<観点別>

観点別で見ると、「知識・理解」「表現・処理」とも、全国や県の平均正答率を下回っています。

具体的には、基礎的な四則計算はよくできていますが、図形の定義や性質、割合の意味の定着が不十分だったようです。無解答の割合が県平均を上回っていました。

(3) 調査B(領域別, 観点別)について



<領域別>

領域別で見ると、すべての領域で県の平均を下回っている現状です。具体的には、提示された資料や図などを基にして解答する問題、調べた結果からきまりを見出す問題の正答率が低かったです。これは、一ひねりした問題、理由を記述する問題に抵抗を感じる児童が少なくないと言えます。また、判断理由を書くなど記述式の無解答率が多く見られることから、考えをまとめて書く力をつける必要があると思われます。

<観点別>

観点別では、「知識・理解」は、県をわずかに上回っています。「表現・処理」は、県とほぼ同じレベルにあります。問題へ取り組もうとする姿勢がうかがわれます。

「考え方」については、県を下回っています。特に、記述式の正答率が下回っています。領域別でも述べたように要点をまとめ書く力を培う必要があります。

算数 B について、正答率が県とほぼ同レベルであったことは、授業でおこなっている『学び合い』学習や学校生活の中のいろいろな場面で考え、思いを表現する機会を設けてきた成果と考えられます。

(4) 学力向上のための指導・取り組み

【算数科の授業を通して】

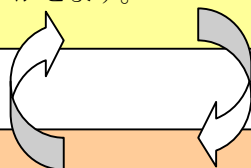
- 徹底的に基礎基本を定着させる時間や発展的に取り組む時間を設定し、個に応じた指導を行っています。
- 『学び合い』学習により、子どもどうして問題解決に取り組む場を仕組み、自分の考えを表現したり友だちの考えを取り入れたりして、全員がわかる授業を目指します。《数学的な考え方》
- 子どものつまづきに早期に気づき（少人数，TT，ノートチェック，確かめ問題等を活用して），早期対応を行います。
- （半）具体物や思考を手助けする資料などを準備し学習環境を整えます。

【スキル・モジュール学習を通して】

- マス計算や繰り返し計算練習によって、四則計算の正確さと速さの定着を図ります。《数と計算》
- 既習学習（現在の学年以前の学習も含む）の復習に取り組みます。（振り返り学習）《全領域》

【日々の活動の中で・教科の枠を越えて】

- 読書指導に力を入れていきます。文章読解力を向上させるために、学年に応じた読書指導を行っています。問題文を読み取り、最後まであきらめず問題に取り組むことへとつなげていきます。（問題を把握する力）《意欲・関心》
- 楽しみながら思考力や活用力を育てる「おもしろ算数問題」等に挑戦させ、子どもに考える面白さや算数のよさ・不思議さなどに気づかせます。



【ご家庭では】

学校での取り組みを定着させるためには、ご家庭での協力が必要です。算数科では、次のことについて今後、ご家庭と連携しながら進めていきたいと思えます。

- 計算スキルや習熟プリント等の宿題・テストプリント等に目を通していただき、お子さんの学習状況について把握をしていただくと共に、励ましや称賛をお願いします。
- 現在学習している内容に関心を持ち、様々な生活場面で算数を意識した話題を持ったり、生活に活かす体験をより多く持たせたりしていただくと、学力の定着「真の算数ができる」「算数の活用力がつく」につながると思えます。

〔例〕具体的な量感（お風呂の水は何ℓ），買い物学習（割合），数と具体物を結びつける（かけ算・お金）など

- 家庭学習の手引きを配布しようと考えています。手引きを参考にして、学習時間や内容について目安を決め、学習習慣を身につけるように励んでほしいと思えます。

〔例〕計算問題，新聞などのグラフから読み取ることなど